

N1 第 47 课 春霞荡漾的几天(语法)

霞始めてたなびく

春霞がたなびき、山野の情景に趣きが加わるころ。遠くかすかな眺めが、ほのかに現れては

消える移ろいの季節。

薄ぼんやりとたなびく霞と、目の前に深くたちこめる霧。春には霞といい、秋には霧と呼び分

けます。気象学では視程一キロ以下のものが霧、それより薄いものが霞。「たちのぼる」は霧

には使いますが霞には使わず「たなびく」はその逆です。なんとなく違いはあっても区別する

のが難しいのが霞と霧。そして夜には霞といわず、朧と。

この庭のいづこに立つも霞かな 高浜虚子

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

春霞开始荡漾

此时春霞荡漾，给山野的情景增添了情趣。这是（春霞）变迁的季节，远远的淡淡的风景隐约地时而浮现时而消失。

淡淡地缭绕的霞和眼前深深地弥漫的雾。在春天叫做霞，秋天叫做雾。气象学里，能见度在一公里以下的叫做雾，比它淡的叫做霞。“升起”的是雾，但是（这个词）不用于霞，“荡漾”与其相反。大致能知道它们的不同，但是难以区分的就是霞和雾。还有，夜里不叫霞，叫做朧。

这个院子里到处都荡漾着的是霞吧。 高浜虚子

语法

1. 一ては～、一ては～

- * 解释：て(动词的中顿→动作做了以后)+は(强调)
- * 意思：两个动作交替反复做
- * 特点：
 1. 第一个动词用て形，第二个动词用连用形。
 2. 作为名词从句使用

1. 鶴は自分の羽を抜いては織り、抜いては織りしているのです。

* 仙鹤把自己的羽毛拔下来以后织、织了以后拔。

* 鶴：(1, 名)仙鹤

* 羽：(2, 名)羽毛；翅膀

* 織る：(1, 他五)织

2. リボンを結んでは解き、結んでは解きしています。

* 正在把丝带系了解、解了系。

* リボン: (1, 名/ribbon) 丝带

* 解く: (2, 他五) 解开, 拆开

* 解ける: (3, 自下一) 解开, 松开; (心情) 放松

3. 子どもは、おもちゃを組み立てては崩し、組み立てては崩し、遊んでいる。

* 孩子正在玩儿, 把玩具装了拆、拆了装。

* おもちゃ: (2, 名) 玩具

* 組み立てる: (4, 0, 他下一) 组装; 组建

* 崩す: (2, 他五) 把~弄散; 破零钱

2. ~といい、~といい

* 解释: と(引号)+いい(言い→说)

* 意思: 不管说~, 还是说~

* 接续: 名词+

* 特点: 1. 必须用言う的连用形言い
2. 名词+といい

1. 生地といい柄といい、申し分のない品物です。

* 不管说是面料还是花样, 都是无可挑剔的商品。

* 生地: (1, 名) 面料

* 柄: (0, 名) 花样; 体格; 人品

* 申し分: (0, 3, 名) 可挑剔的地方

* 品物: (0, 名) 商品

2. 顔立ちといい体型といい、父親にそっくりです。

* 不管说是长相还是体型, 都跟父亲一模一样。

* 顔立ち: (0, 名) 长相, 相貌

* 体型: (0, 名) 体型

* そっくり: (3, 拟态/副/形动) 全部; 一模一样

3. 味付けといい盛付けといい、ここの中の料理は文句の付け様がない。

* 不管是说调味还是说装盘, 这里的饭菜都是无可挑剔的。

* 味付け: (0, 名) 调味

* 盛付け: (0, 名) 装盘, 摆盘

* 文句: (1, 名) 词句; 牢骚, 怨言

* 一様: (0, 名) 办法